

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態と治療Ⅲ 骨筋肉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限		教室名	
担 当 教 員	高樋 康一郎	実務経験と その関連資格	大阪大学、刀根山病院を始め整形外科医として臨床経験24年			
《授業科目における学習内容》						
内因性(非外傷性)の運動器疾患						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト においてあらかじめ決められた点数以上を獲得すること						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
①ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑤運動機能障害(メディカ出版) ②ナーシンググラフィカEX 疾病と看護⑦運動器(メディカ出版)						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと						
《履修に当たっての留意点》						
実臨床で経験することの多い疾患を重点的に教える また国家試験の傾向を踏まえた授業を行う						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動機能障害で行われる検査			
		各コマにおける授業予定	計測、徴候・テスト、神経学的検査、単純X線検査、CT検査、MRI検査、造影検査、各医学的検査、超音波検査、関節鏡検査、筋電図検査、神経伝達検査、骨密度検査、血液・尿生化学検査、関節液検査、髄液検査、生検術			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動器の異常で見られる症状			
		各コマにおける授業予定	疼痛、腫脹、変形、しびれ、麻痺、異常歩行、可動域制限、筋力低下、筋委縮			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動器疾患の主な治療・処置			
		各コマにおける授業予定	安静、薬物療法、装具療法、矯正法・整復法、けん引法、固定法、手術療法、リハビリテーション			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨格系の運動機能とその障害			
		各コマにおける授業予定	骨折、骨の腫瘍			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎の運動機能とその障害			
		各コマにおける授業予定	脊髄損傷(脊椎圧迫骨折) 脊椎変性疾患(頸椎症性脊椎症・後縦靭帯骨化症・椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄)			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 関節の運動機能とその障害		
	各コマにおける授業予定	関節リウマチ 変形性関節症		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 筋肉の腫瘍・変性や神経に由来する運動機能障害		
	各コマにおける授業予定	筋疾患(筋ジストロフィー・多発性筋炎) 神経筋接合部疾患(重症筋無力症) 神経変性疾患(ALS) 末梢神経障害(ギランバレー症候群、ニューロパチー)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 骨・軟部組織の運動機能障害		
	各コマにおける授業予定	スポーツ障害(靭帯損傷。半月板損傷・脱臼・捻挫・肉離れ) 小児(先天性内反足・二分脊椎症) 加齢(骨粗しょう症)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			